

響きあう東西文化

マラルメの光芒、フェノロサの反影

宗像 衣子 著

2015年9月刊行予定

A5判・390頁／定価:本体5,400円(税別) ISBN978-4-7842-1814-1

本書は、19世紀フランス象徴主義の巨匠・詩人ステファヌ・マラルメ(1842-98)について文学的考察を起点に進められた諸芸術(美術・音楽)の相関的研究から、明治近代化の黎明期に、日本の伝統芸術・文化を欧米に紹介してその価値を究めたアーネスト・フェノロサ(1853-1908)との関係へと至るものであり、東西の芸術文化の交流の諸相および日本文化の価値を、現代に向けて照らし出すものである。著者の10年にわたるマラルメ探究の成果、そのエッセンスをまとめた一書。

内容目次

Ⅰ 文芸に見る自然観

1 マラルメの“無”

I マラルメのことば／II 日本美術の特色的一面／III 共通性と差異性／IV 芸術の響き合いの様々

2 俳句とハイカイ

I 俳句の仏訳／II ハイカイおよび短詩型詩歌／III ことばの表現、文化の意識

3 “主体”の表現

I マラルメの思考と思想／II 日本の詩、蕪村のことばとイマージュ／III 日本の絵・美術／IV 日本の絵とフランスの絵画—ジャポニスムからマラルメの価値へ

4 バルト再考

I 『零度のエクリチュール』から／II 『表徴の帝国』／III 他領域とバルトの意識／IV 日本における俳句／V 言語と文化

Ⅱ 創造における逆説性

1 中枢としての音楽

I マラルメの図形詩「骰子一擲」より／II ドビュッシーをめぐる／III ブラックとクレールにおける絵と音楽の詩学／IV 九鬼周造とフェノロサにおける芸術と文化

2 世紀末芸術の錯綜

I 歴史・社会の変貌／II 文化の変遷／III 国々の芸術の動向／IV 日本の芸術事情／V 総合的意味

3 ロダンが結ぶ社会と芸術

I 生涯と作品／II 思想の現れ／III 問題の集約

Ⅲ 芸術表現の交流

1 マラルメの「骰子一擲」

I 「骰子一擲」の位置／II ことばの問題／III 音楽の可能性と限界／IV 視覚芸術の可能性と限界／V 「骰子一擲」に実現された総合性の価値

2 マチスの“余白”

I マラルメの“余白”—「骰子一擲」とマネ／II マチスの挿絵と線描—『画家のノート』から／III ジャンルと東西の架け橋

3 詩と絵と書における“空無”

I 書の歴史／II フランス近現代詩／III 余白の意識／IV 抽象芸術／V 芸術と文化の広がり

4 魁夷が紡ぐ東西芸術

I 生涯と作品／II 自然への志向／III 絵六點／IV 全貌

Ⅳ 伝統文化の現代性

1 九鬼周造とフランス象徴主義

I 「文学の形而上学」／II 「日本芸術における「無限」の表現」／III フランス象徴主義

2 フェノロサの総合芸術観

I 文化の意識／II 総合芸術性と音楽の位置／III 文学論「文学の理論に関する予備的講義」／IV マラルメの思索との照応

3 フェノロサ『漢字考』と「能楽論」の文芸価値

I 『漢字考』／II 能／III 近現代世界文学におけるフェノロサの意味／IV 美術領域・文化観に関わる文学的価値の位置

むなかた・きぬこ... 京都府生まれ。1973年京都大学文学部フランス文学専攻卒業、同大学院文学研究科同専攻修士課程修了、同博士課程単位取得退学、新ソルボンヌ・パリ第三大学文学博士。現在、神戸松蔭女子学院大学文学部総合文芸学科教授。


思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票

発行:思文閣出版

(京都 取引コード 3402)

冊数	冊	響きあう東西文化 マラルメの光芒、フェノロサの反影	本体5,400円(税別) ISBN978-4-7842-1814-1
お名前		tel	
		e-mail	
ご住所	〒		
送本方法	代引(書籍代+消費税+送料400円を現品と引き替えにお支払い、代引手数料は弊社負担) ◎ 最寄りの書店・ネット書店でもお買い求め、お取り寄せできます ◎		

日仏文学・美術の交流

「トロンコワ・コレクション」とその周辺

石毛弓・柏木隆雄・小林宣之編 大手前大学比較文化研究叢書10
明治27年から明治43年にかけて日本に滞在、多くの和画や美術品を蒐集、研究したE・トロンコワのパリ国立高等美術学校所蔵コレクションを柱に、日仏美術の交感を論じた7篇を日仏両言語で収録。カラーを含む図版を多数掲載。

▶A5判・284頁／本体2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1745-8

比較詩学と文化の翻訳

川本皓嗣・上垣外憲一編 大手前大学比較文化研究叢書8
国際比較文学会(ICLI.A)会長であった故アール・マイナー氏の追悼と、同じくICLI.A会長を務めた川本皓嗣大手前大学前学長の退職を祝うため、各国から集った研究者の共同論集。詩歌の翻訳から民謡、仏教、獅子舞、ペルシャの涙壺まで、比較文化と翻訳にまつわる事象を様々に論じる。

▶A5判・286頁／本体2,500円(税別) ISBN978-4-7842-1637-6

言語のあいだを読む 日・英・韓の比較文学

大澤吉博著
東京大学大学院で比較文学の指導に当たり、在職中に急逝した氏の研究成果。その主題は夏目漱石、漱石を中心とした日本文学の他言語への翻訳、外から見た日本文学と日本文化、そしてイギリスと世界との関わりである。30年以上にわたる多彩な研究の全体を広く学界に提示する遺稿集。

▶A5判・550頁／本体9,000円(税別) ISBN978-4-7842-1524-9

夏目漱石における東と西

松村昌家編 大手前大学比較文化研究叢書4
明治の文豪、夏目漱石の小説において、そこに織り込まれた西洋の概念と東洋の概念の葛藤、直接影響を受けた小説との比較、イギリスの事象の受容の様相など、気鋭の研究者たちによる漱石文学論。

【執筆者】松村昌家／仙葉豊／佐々木英昭／飛ヶ谷美穂子／大高順雄／神田祥子／森道子
▶A5判・208頁／本体2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1335-1

谷崎潤一郎と世紀末

松村昌家編 大手前大学比較文化研究叢書1
大手前大学で行われた第62回日本比較文学会全国大会のシンポジウムをもとに、海外における谷崎評価も踏まえ、比較文学的見地から谷崎の文学に迫る。さらに、谷崎が世紀末的デカダンスの洗礼を受けたとされるノルダウの「世紀末」とクラフト＝エービングの「マゾヒズム」の翻訳を収録。

▶A5判・212頁／本体2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1104-3

岡倉天心の比較文化史的研究

ボストンでの活動と芸術思想

清水恵美子著
岡倉覚三(天心、1863-1913)の生涯の活動に通底する思想や、ボストン社会で成そうとしていたことは、いかなるものだったのか。またボストンと日本における岡倉像を比較し、固定化され流布されている「岡倉天心」像を再検証。2012年度芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。

▶A5判・548頁／本体10,700円(税別) ISBN978-4-7842-1605-5

セザンヌと鉄斎 同質の感動とその由縁

山岸恒雄著
フランスの画家ポール・セザンヌと富岡鉄斎。両者の絵の同質性については、以前より指摘があったが、その理由については、明かされていない。本書は、この同質性が何に由来するものなのか、また何を意味するものなのかを、両画家の生い立ちや教育、思想、哲学、人生観、芸術観等から明かす。

▶A5判・358頁／本体2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1796-0

ジャポニスム入門

ジャポニスム学会編
これまであまり紹介されなかった地域も含め各国別の個性的な展開をやさしく読み解き、さらに建築、音楽、写真、モードという絵画・工芸以外の分野におけるジャポニスムをも射程に入れ、ジャポニスムの全体像に迫る。ジャポニスム学会20周年記念出版。

▶A5判・292頁／本体2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1053-4

日仏マンガの交流

ヒストリー・アダプテーション・クリエイション

石毛弓・柏木隆雄・小林宣之編 大手前大学比較文化研究叢書11
日仏両国および海外のマンガ／バンド・デシネ文化について、各国の特質と相互の交流を、特徴・受容・翻訳などの視点から考察する。

【執筆者】柏木隆雄／小野耕世／倉田よしみ／徳田俊之／石毛弓／岩本和子／C・ムリス／関口涼子／P・オノレ／うえやまとち
▶A5判・286頁／本体2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1802-8

翻訳文学の視界 近現代日本文化の変容と翻訳

井上健編
外国文学の翻訳は近代日本文学の形成に大きな影響を及ぼした。直訳と意訳、翻訳者の役割、原作者の言語意識…。言語が母国文化と深く関わる以上、翻訳文学はつねに複雑な要素をはらむ。最前線で活躍中の研究者たちが、比較文学・比較文化研究の立場から翻訳文学の諸相を語り可能性を探る。

▶A5判・300頁／本体2,500円(税別) ISBN978-4-7842-1600-0

※ヴィクトリア朝英国と東アジア

川本皓嗣・松村昌家編 大手前大学比較文化研究叢書3
近代化過程における日本・中国・朝鮮と英国の文化交流誌。

【内容】ムスメに魅せられた人々／キプリングと日本／交差する両洋の眼差し／中村正直／福澤諭吉におけるW.バジレット問題／文明史・G・G・ゼルフィとT・B・麻侯礼卿／ミルのOn Libertyは明治日本と清末中国でどのように読まれたか 他

▶A5判・280頁／本体3,200円(税別) ISBN978-4-7842-1297-2

越境する漱石文学

坂元昌樹・西横偉・福澤清編
熊本大学の研究プロジェクトによる漱石論集の第3弾となる本書では、第1部において、漱石と世界文学との関わりを考察。第2部において「越境」の実践としての「漱石と熊本」という視点から、漱石の熊本時代の評論、エッセイ、交友関係を考察する。

▶A5判・284頁／本体2,800円(税別) ISBN978-4-7842-1565-2

中国語圏における厨川白村現象

隆盛・衰退・回帰と継続

工藤眞正著
厨川白村(1880-1923)の著作が日本でどのような評価を受け、大陸・中国の民国文壇の知識人にどのように受容されたのか、また、翻訳された厨川文体の特徴とは如何なるものだったのかを基本的資料を示しながら考察。

▶A5判・378頁／本体6,000円(税別) ISBN978-4-7842-1495-2

フェノロサ社会論集

山口静一編
明治期の美術運動に足跡を残したことで著名なフェノロサだが、来日当初の目的は東京大学でミル、スペンサー、ヘーゲルなど社会思想を講じることだった。本書では日本の学会誌や新聞、総合雑誌に発表された政治・経済・社会・宗教・哲学・比較文化論等に関する主要な論文・講演13篇を収録。

▶A5判・330頁／本体7,800円(税別) ISBN978-4-7842-1028-2

※ドイツにおける〈日本=像〉

ユーゲンツシュティールからバウハウスまで

クラウティア・デランク著／水藤龍彦・池田祐子訳
従来のジャポニスム研究を踏まえながら、ドイツの美術・デザイン・建築と日本美術との関係、ひいては横断的な日本=像の変遷を提示する。第26回(2005年度)ジャポニスム学会賞受賞。

▶A5判・312頁／本体3,800円(税別) ISBN978-4-7842-1194-4

俳句とジャポニスム メキシコ詩人タブラーダの場合

太田靖子著
90年前にスペイン語でハイクを書いていた詩人ホセ・ファン・タブラーダ。彼がいかにして日本の俳句を知り、ハイクを創作するに至ったかを明らかにし、日本の俳句の本質へ如何に接近したかについて、その評価を試みる。俳句をスペイン語圏に広めた第一人者でありながらも、いまだに研究の乏しいタブラーダのハイク作品に光を当てる一書。

▶A5判・328頁／本体5,800円(税別) ISBN978-4-7842-1404-4

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。